

文化センターだより7月号「買物などの移動支援に関するアンケート」集計結果(地区別まとめ)

1 大柿地区全体のまとめ

- 今回のアンケートには、自治会、民生委員、ケアマネジャーの皆さんからのご協力もあり、181 件の回答が寄せられました。
- 移動支援の必要性について、「必要だと思う」「どちらかといえば必要」と回答した人は 127 人(70.2%)となりました。
- また、お試し事業については、「利用してみたい」が 58 人、「今は必要ないが、将来的には必要」が 70 人で、合わせて 128 人(70.7%)となっています。利用してみたい内容では、「買物」111 件、「通院」86 件が多く、買物と通院が大きなニーズとなっています。
- 自由記述では、バスの本数や乗り換え、免許返納後の移動手段、買物・通院への送迎を求める声に加え、移動販売、食材の宅配、ゴミ出し、庭の草取りや剪定など、日常生活のさまざまな支援を求める声が寄せられました。
- 一方で、「今は家族や近所の人に支えてもらっているので困っていない」という声もあり、その背景には「運転できなくなったら」「家族の支援がなくなったら」という将来への不安も見られます。
- 今回の結果から、移動支援は単に「買物に行くための車」を用意するという課題ではなく、**買物、通院、地域活動への参加など、住み慣れた地域で暮らし続けるための「移動」を地域でどう支えるかという課題**として考える必要があることが分かります。
- また、地域によって交通事情や生活機能の集積状況が大きく異なることから、**大柿地区全体を一つの方法で考えるのではなく、それぞれの地域特性に応じた支援のあり方を考えることが重要です。**

2 地域別のまとめ

① 深江

- ◆ 深江では、回答 26 件のうち「必要だと思う」「どちらかといえば必要」が 18 件(69.2%)。お試し事業については、「利用してみたい」6 件に加え、「今は必要ないが、将来的に必要」が 13 件あり、合わせて 19 件(73.1%)となっています。
- ◆ 深江はバス路線が地域の中ほどまでしか入っておらず、地域内から公共交通につながるまでの「最後の移動」が課題になりやすい地域です。自由記述でも「公共交通機関がないので移動手段に困る」「車の運転ができなくなった時に利用を考えたい」などの声がありました。
- ◆ 「今すぐ利用したい」という人だけでなく、現在は自分で移動できていても、将来への備えとして移動支援を必要と考えている人が多い地域と見ることができます。

② 大古（大原・小古江）

- ◆ 大原と小古江を合わせた回答は 48 件。「必要だと思う」「どちらかといえば必要」が 32 件(66.7%)、お試し事業について「利用してみたい」「今は必要ないが、将来的に必要」を合わせると 38 件(79.2%)となり、5 地域の中でも将来的な利用を含めたニーズが高い地域です。
- ◆ 大古は、市役所、市民センター、商業施設、こども園、学校などが集まる大柿地区の中心地域です。そのため、地域内に生活機能が集まっている一方、自由記述には「病院への交通手段」「免許返納後の交通機関」「食材を家に届けてくれるサービス」など、**中心地域にある生活機能へアクセスするための移動や、そこへ出向くことが難しくなった場合の支援**を求める声が見られます。
- ◆ 「生活機能が集まっている地域だからこそ、そこへ行けること、行けなくなったときにどう支えるか」がポイントになる地域と考えられます。

③ 大君

- ◆ 大君は、52 件の回答のうち「必要だと思う」「どちらかといえば必要」が 49 件(94.2%)と、5 地域の中で突出して高い結果となりました。お試し事業についても、「利用してみたい」29 件(55.8%)、「将来的に必要」17 件(32.7%)で、合わせて 46 件(88.5%)となっています。
- ◆ 大君は、深江と同様に地区内にバス路線が一部しか入らず、山の中腹にも集落があり、バス停までの距離が課題となっています。自由記述でも、バスの便や店舗の不足、買物への送迎を求める声が非常に多く、「一週間に一度買物に行く車を用意してほしい」「買物の送迎のマイクロバスを出してほしい」といった具体的な提案も寄せられています。
- ◆ 今回のアンケートでは、移動支援の必要性が最も明確に表れた地域の一つであり、具体的な支援方法を地域と一緒に検討する意義が大きい地域と考えられます。

④ 柿浦

- ◆ 柿浦では、27 件の回答のうち「必要だと思う」「どちらかといえば必要」が 12 件(44.4%)で、5 地域の中では必要性を感じる割合が比較的低くなっています。お試し事業についても、「利用してみたい」6 件と「将来的に必要」8 件を合わせて 14 件(51.9%)でした。
- ◆ 柿浦には、コンビニ、大柿厚生文化センター、弁当店、パン・お好み焼き屋さんなどがあり、バス路線も大古に次いで比較的充実しています。こうした**地域内の生活機能や交通環境の違いが、アンケート結果にも表れている可能性**があります。
- ◆ 一方、自由記述には「買物支援、病院や金融機関」「買物バス」「店まで連れて行ってもらう、店の中で動けなくなることへの不安」などの声があり、単純な送迎だけでは解決できないニーズも見られます。
- ◆ 「移動できればよい」だけでなく、**移動先での介助や付き添いまで含めて考える必要がある地域**とも言えます。

⑤ 飛渡瀬

- ◆ 飛渡瀬では、28 件の回答のうち「必要だと思う」「どちらかといえば必要」が 16 件(57.1%)。お試し事業については、「利用してみたい」4 件、「将来的に必要」9 件で、合わせて 13 件(46.4%)となっています。

- ◆ 飛渡瀬は、スーパー、家電、ホームセンター、薬局など商業施設が集まる本市のセンターゾーンであり、買物については地域外へ出る必要性が比較的少ない地域です。そのため、買物を目的とした移動支援へのニーズが他地域より低く表れている可能性があります。
 - ◆ 一方、自由記述には、通院手段、ヘルパーでは頼めないこと、庭木の剪定や草取り、急な外出時の付き添い、百歳体操など地域活動への参加の難しさなど、「買物以外の移動・生活支援」へのニーズも見られます。
 - ◆ 買物支援を中心に考えるだけでは拾いきれない、「外出」「社会参加」「日常生活のちょっとした支援」という視点が重要な地域と考えられます。
-

3 「お試し事業」を検討するために移動支援ネットワーク会議で共有したい視点について

5 地域の結果を並べてみると、単純に「どの地域のニーズが高いか」を競うのではなく、「地域によって、困りごとの形が違う」ということが今回のアンケートから見えてきます。

- 深江・大君 → 地域から公共交通につながるまでの移動
- 大古 → 中心地域に集まる生活機能へのアクセス
- 柿浦 → 地域内の生活機能を生かしながら、通院等をどう支えるか
- 飛渡瀬 → 買物以外の外出・社会参加・生活支援

というように、それぞれの地域の「暮らしの地図」が違います。

したがって、お試し事業についても、最初から「大柿地区全体で同じ仕組み」をつくるのではなく、それぞれの地域の特性と、地域の人実際に困っている場面を出し合いながら、「どこで、誰が、何のために、どのような移動を支えるのか」を考えることが、これからの取組の大きなテーマになると考えます。